

ブランドに対する意識が
地域団体商標で深まり
組合の組織強化を実現

首里織

「首里織」とは、沖縄県那覇市の首里周辺に伝わる種々の紋織や緞織物を総称する名称。紋織から緞に至るまで多彩に織られるのが特徴で、中には花倉織や道屯織など貴族向けの首里でしか織られないものもあります。この伝統ある地域ブランドを模倣品から守るために地域団体商標に登録したところ、組合員のモチベーションが高まり組織が強化され、ブランドとしての信頼感の向上から後継者育成にもつながっています。



沖縄県 那覇市

首里周辺で生産される
多種多様な織物を
一つのブランドに統合

琉球王国時代に交易を通じて入り、王家のために織り継がれていた多種多様な織物技術を、1983年に国の伝統的工芸品の指定を受ける際、総称して「首里織」と名付けました。もともとは個別の技法だったものが、一つの名称に統合されて生まれたブランドと言

えます。一番の特長はその技法。高貴な人に向けた織物のため色使いが鮮やか。また、純国産の絹糸を使うことを推進しており、平絹のほとんどが群馬県産の糸を使っています。沖縄県が定めた検査規格に加え、組合独自のチェック項目もあり、厳格な検査を経て合格した商品だけがその証となる4種類のマークを貼って出荷されます。ところが、2000年頃から「首里織」と銘打った模倣品、あ

るいは類似品が市場に多く出回りました。「首里織」の技法と技術を守り、それらを正しく伝える組合の商品であることをアピールするために、沖縄県の推奨もあって2006年に地域団体商標を取得したのです。



地域団体商標
組織強化事例

07

地域ブランド 10の成功物語 | 組織強化事例



【権利者】那覇伝統織物事業協同組合
【住所】沖縄県那覇市首里桃原町2丁目64番地
【地域団体商標】首里織
【商標登録】第5011881号

那覇伝統織物
事業協同組合
ホームページへ



「首里織」の商標のもと
組合員の結束が固まり
取り組みが活性化

組合設立当初より国・県・市の補助を受けて「後継者育成事業」を実施し、現在も毎年7名の新人が研修で技法を習得。全国の生産地で後継者不足が叫ばれる中、同組合に在籍する約90名の組合員は20代から70代まで幅広い年代で構成されています。作り手を継続的に確保できる理由は、組合員が製造した商品を組合が預かり、個人では難しい販売や展示会への出展を行うため、仕事や生活の安定性・安心感があること。研修を修了したばかりの新人も、一般人向けの体験工房で講師を務め、スキルを磨きながら活動資金が確保できる仕組みになっています。もう一つの理由は、自分の手で商品を企画・デザイン・製作できる自己完結型の仕事の面白さ。

そして、国が認めたブランドを支える担い手としての誇りを持つことも大きな魅力です。現在、組合の品質検査で合格したものだけに「首里織」のマークを付け模倣品・類似品との差別化を図っています。また、組合員のモチベーションはより高まり、有志が自発的に複数のグループを立ち上げてオリジナル商品の開発に注力。地域団体商標により、将来につながる組織強化を実現することに至ったのです。



組合の事務所内に研修所を設置し後継者を育成



組合員のアイデアで個性あふれる商品を開発

この方々にお話を聞きました！
那覇伝統織物事業協同組合



理事長
赤嶺 真澄氏

地域団体商標に登録したことで、「『首里織』の名前にふさわしい仕事をしなければ」という心構えが組合員に芽生え、組合としての活動もますます活発になったと感じます。



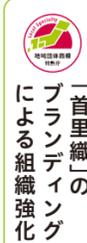
理事
大城 孝美氏

11名のグループで開発した名刺入れが那覇市長賞を頂きました。ただし「首里織」は技法の幅が広くゴールはありません。このブランドが持つ独特な魅力を伝えていきたいです。



理事
金良 勝代氏

私は20代前半に「首里織」に魅せられ作り手になりました。信頼感のあるブランドで、しかも同じものは織らないため年齢に関係なくお互いを尊敬し合えるのも魅力です。



「首里織」の
ブランド
による
組織
強化

STEP 1 1976年6月

首里周辺に伝わる織物技法の継承を目的に那覇伝統織物事業協同組合を設立



STEP 2 1983年4月

多種多様な技法を「首里織」という総称で統合し伝統的工芸品に登録



STEP 3 2006年12月

横行する模倣品の対策として、沖縄県の推奨もあり地域団体商標を取得

STEP 4

組合員たちは意欲的に商品を開発しその新作は年1回開催の「首里織展」にて発表

